

山本敬介 議員

1 字占冠の集落対策を

問 字占冠地域の水洗化と住宅建設を伺います。住民懇談会で、村長から水洗化の話題がでました。字占冠は公営住宅を中心に汲み取り式のトイレを使っている状況ですが、水洗化を進める考えはありますか。また、地域からは古い公営住宅を壊すだけではなく、新しく建てて住民を増やしてほしいという要望もあります。伺います。

中村村長 占冠団地は、大規模な浄化槽で水洗化をするなどの方向性を検討しています。また、住宅の建設ですが、宮下地区の住宅同様に入居される見通しがあれば、字占冠にも建設を検討していききたいと思います。

問 公営住宅だけではなく近隣の住宅にも対応できるような大型の浄化槽であれば、私有地にも新しく家を建てる可能性もでてきますので、ぜひ進めていただきたい。また、現在取り壊しの済んだ村有地を販売する考えはありませんか。伺います。

中村村長 取り壊した住宅の用地は、今要望を出している更生橋の架け替え用地として、確保しておきたいと思っています。

問 村は北海道集落総合対策モデル事業に平成25年から取り組んできました。字占冠地区の集落点検では10年後の共同生活の維持に影響しないというまとめがありました。ただ、実際はどうでしょうか。10年後に現在の字占冠の活力が維持されているでしょうか。村長の考えを伺います。

中村村長 コミュニティの維持、活性化や高齢者支援などが占冠地区の課題と認識しており、地域の活力を維持していくためには、住民意見を踏まえて策定された集落総合方針に基づき住民および行政の取り組みを着実に推進していくことが重要と考えています。

問 ご存知の通り、字占冠は、旧占冠小学校のPTA中心に現在でもコミュニケーションが非常に盛んな場所です。そして、ジビエ工房「森の恵み」や「しもかぷ工房」など、新しい動きも字占冠の中で起こっています。

さらに、楓住宅の若い層、そして、ちよつと暮らしの方々など、ここ1、2年で非常にこの地域は興味深い動きになってきています。農水省の都市と農村の共生対流総合対策交付金や、農村集落活性化支援事業などで、具体的にハード事業や雇用を組み合わせて、地域おこし協力隊も含めて、具体的に地域づくりを進めていく考えはありませんか。伺います。

中村村長

集落対策の基本となるのは、住民の自主的な活動と、それを支える村の支援が両輪であると認識しています。今後は、さまざまな国の制度や村単独の制度も活用して集落対策を進めていくわけですが、やはりその地区のコミュニティの高い意欲や目的意識が重要だと考えています。

2 子ども子育て計画の委員選定は

問 現在「子供子育て事業5か年計画」の策定のために、「子供子育て会議」が行われていますが、当初、トمام地域からの委員選定がありませんでした。トمامは中央と教育環境がまっ

たく違います。こういう重要な会議にトمامの委員が入っていないのは大問題です。会議も中央とトمامで交互にやるなど、しっかりと地域の意見を聞いていくべきと思いますが、伺います。

中村村長

議会に説明した時点で候補者がおらず、以降2名のトمامの方から委員として了解を得られました。過去にトمامでも会議を行って計画を作ったこともありますが、今後は会議の持ち方等も配慮しながら住民の方々の意見を十分取り入れられるような仕組みを作っていくたいと思います。

3 保育所の名称変更を

問 占冠村の2つの保育所は、村のへき地保育所条例によってそれぞれ「占冠へき地保育所」と「トمامへき地保育所」と定められています。しかし、「へき地」という言葉には都市から離れて非常に不便という、ある種の侮蔑的なニュアンスがあると思います。帯広市のへき地保育所条例では、保育所の名称には「へき地」という言葉はありません。子供に夢を与えるような名前を公募する等をして改正を

することができないか、村長の考えを伺います。

中村村長 ご指摘の「へき地」の名称ですが、新年度から北海道からの運営補助制度が撤廃されますので「へき地」という縛りはなくなります。名称については、今後保護者等のご意見をうかがいながら改正について検討協議をしてまいります。

問 近年、「森のようちえん」という北欧デンマーク発祥の手法が脚光を浴びています。占冠は、実際にそういう教育ができる環境にありますので、ノウハウを蓄積していくことが大切だと思います。村長は「占冠らしい子育て・保育」をどのように考えていますか。伺います。

中村村長 占冠保育所の運営は、厚生労働省の保育指針に基づいたプログラムをベースに占冠保育所、それからトママ保育所それぞれ特徴的な事業をやっています。子供子育て事業計画の策定もありますので、保育所の現場とも十分協議しながら進めてまいります。